

日本天文学会 早川幸男基金による渡航報告書

IAU Symposium 289, IAU Symposium 292

渡航先—中国

期 間—2012年8月19日-9月1日

私は、国際天文学連合 (IAU) の総会とそれに伴って開催されるシンポジウムに参加しました。二つのシンポジウム (IAU Symposium 289: “Advancing the Physics of Cosmic Distances” と IAU Symposium 292, “Molecular Gas, Dust, and Star Formation in Galaxies”) に参加しました。世界最大級のシンポジウムでどちらのシンポジウムも世界から有名な方々が多数参加されていました。今まで文献の中でしか、名前を知らなかった方々と接することができました。今回の参加目的は、IAUS (IAU Symposium) 289での口頭発表 (VLBI Astrometry of Semi-regular Variable Star RX Bootis) と IAUS (IAU Symposium) 292でのポスター発表です。口頭発表では、半規則型変光星 RX Bootis の年周視差測定とその結果について報告を行いました。この天体の特徴は二つの周期を同時にもっているということです。VERA (VLBI Exploration of Radio Astrometry) を用いて年周視差を測定することで距離を約 136 pc と求め、この距離から光度、さらに周期密度関係と二つの周期をもつことから質量、光度、半径を見積もり、星の性質について考察しました。ポスター発表では星形成領域 NGC2264 について発表を行いました。この領域までの距離を年周視差から測定し、過去に測定された距離に対して制限をかけることができました。またこの領域での星形成について距離を求めることで算出できる質量や光度から原始星について議論しました。このように距離を測定することで多くの考察をすることが可能です。

私が海外で発表するのは今回が初めてで、英語

での会話や発表でとても緊張していました。ポスター発表はとても大きな会場で行われ、たくさんのポスターが掲示されていました。その中の1枚だったのですが、なるべくわかりやすく伝わりやすいものを作成し、何人かの人に説明もしました。口頭発表は、海外で発表する初めての英語 (日本語以外) での発表で、とても緊張していました。発表の最初に「This is my first presentation outside Japan.」といったのを覚えています。これを言ったためかどうかわかりませんが質問はとても優しいものでした。発表中は緊張していたので一生懸命しゃべることだけ (止まらないようにすることだけ) を考えて話しました。質問をしていただけたので内容は伝わったのだと考えています。指導教官や座長に良い発表だったと言ってもらったので、これからはもっとうまく話せるように努力していきたいと思います。

今回は海外での研究会に参加することで英語をたくさん聞くことができました。日本にいるときはそれほど英語に慣れていなかったのですが、今回の研究会で英語に慣れることを目標に多くの発表や会話をしました。2週間も海外にいたことができたので、発表は始めはよくわかっていなかったのですが最終日には発表内容を理解するところまでいけたと思います。これからもこのような機会があれば多くの海外での研究会に参加し、英語の聞き取りや発表を上手にできるようになりたいと思います。最後になりましたが、渡航を援助していただきました日本天文学会、早川幸男基金関係者の皆様に改めて感謝致します。ありがとうございました。

亀崎達矢 (鹿児島大学理工学研究科
宇宙物理学研究室 D1)